



公開シンポジウム JANS 42

日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学分科会・
日本看護系学会協議会共催

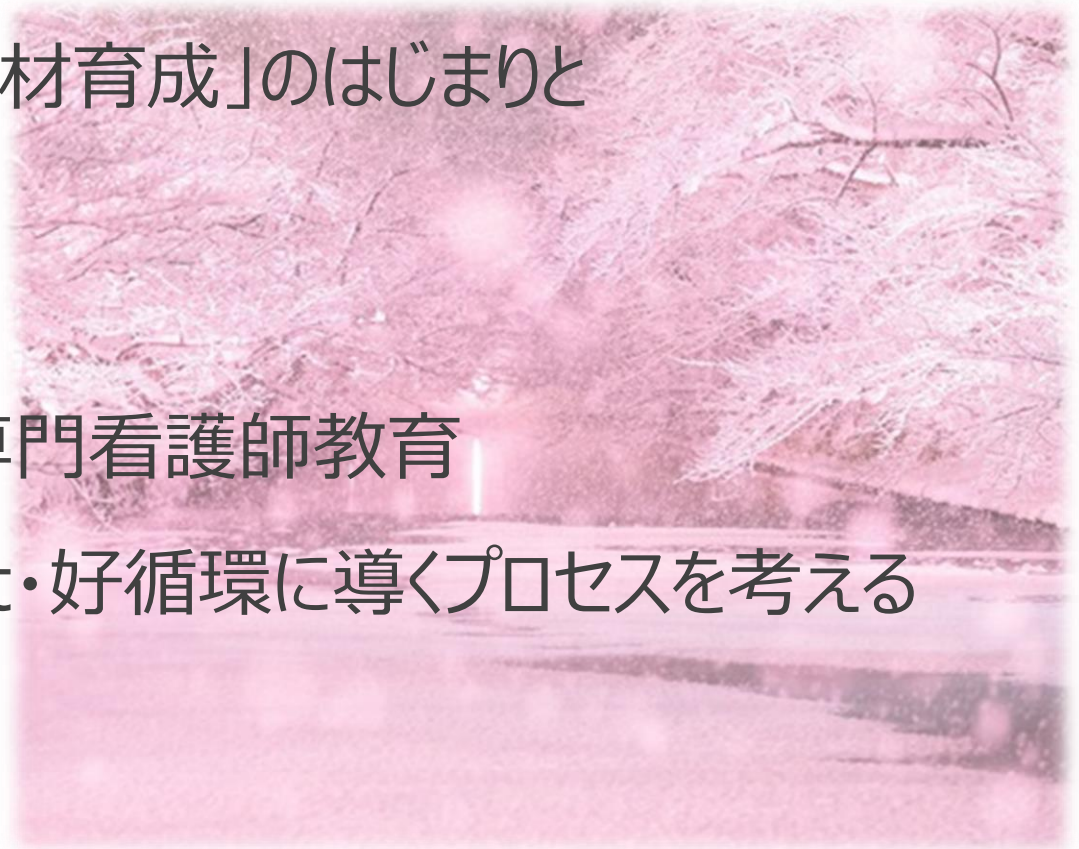
地元創成看護学の実装
－教育・研究・社会貢献の循環

地元から発信する「放射線看護」
弘前大学大学院保健学研究科の取組み

弘前大学大学院保健学研究科
野戸結花

本日の内容

- ◆ 弘前大学における「緊急被ばく医療人材育成」のはじまりとその後の取組み
- ◆ 受け身から「発信」への転換
- ◆ 放射線看護への拡大と放射線看護専門看護師教育
- ◆ 取組みを支えたもの～Turning Point・好循環に導くプロセスを考える

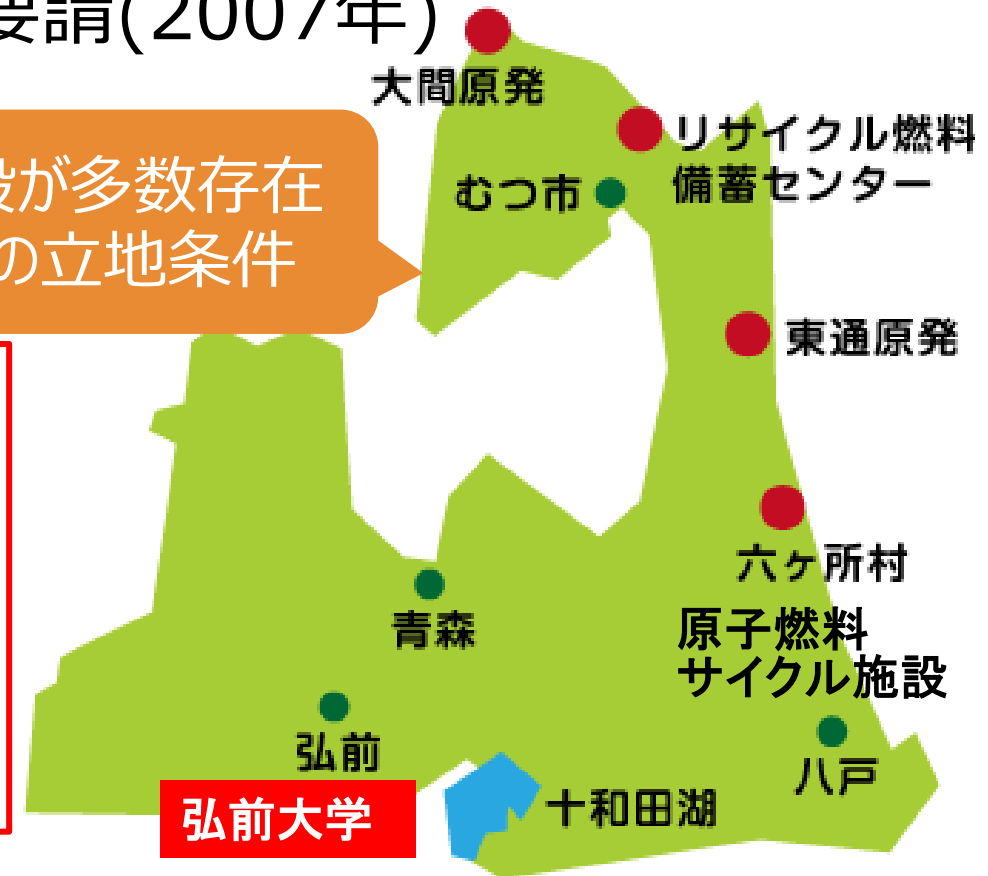


弘前大学における「緊急被ばく医療人材育成」のはじまり

弘前大学学長から緊急被ばく医療における医療専門職者の教育の
必要性と人材育成プロジェクトの立ち上げを要請(2007年)

原子力関連施設が多数存在
している青森県の立地条件

青森県の原子力関連施設における
放射線事故・原子力災害発生時の「備え」
緊急被ばく医療を担う
「高度救命救急センター」の設置
医療職者の育成



弘前大学における「緊急被ばく医療人材育成」のはじまり

弘前大学学長から緊急被ばく医療における医療専門職者の教育の
必要性と人材育成プロジェクトの立ち上げを要請(2007年)



保健学研究科内に「被ばく医療検討委員会」を設置し、
人材育成に向けた検討を開始

『緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備』(2008～2012年度)
文部科学省の特別教育研究経費

「緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備」 プロジェクトはどのようにはじまったか “蘭学事始”にも似たゼロからのスタート

初期目標：緊急被ばく医療の国内外の現状に関する情報収集、人材育成に関する要件と課題の明確化

関連機関との
包括協定の締結

日本原燃株式会社
放射線医学総合研究所
(量子科学技術研究開発機構)

連携・支援
の依頼

広島大学、長崎大学
学外の専門家

全体像の概念化
基本計画の立案

プロジェクトを進めるために…教員研修の必要性

プロジェクトの最大の課題

教員の知識・技術、経験の不足

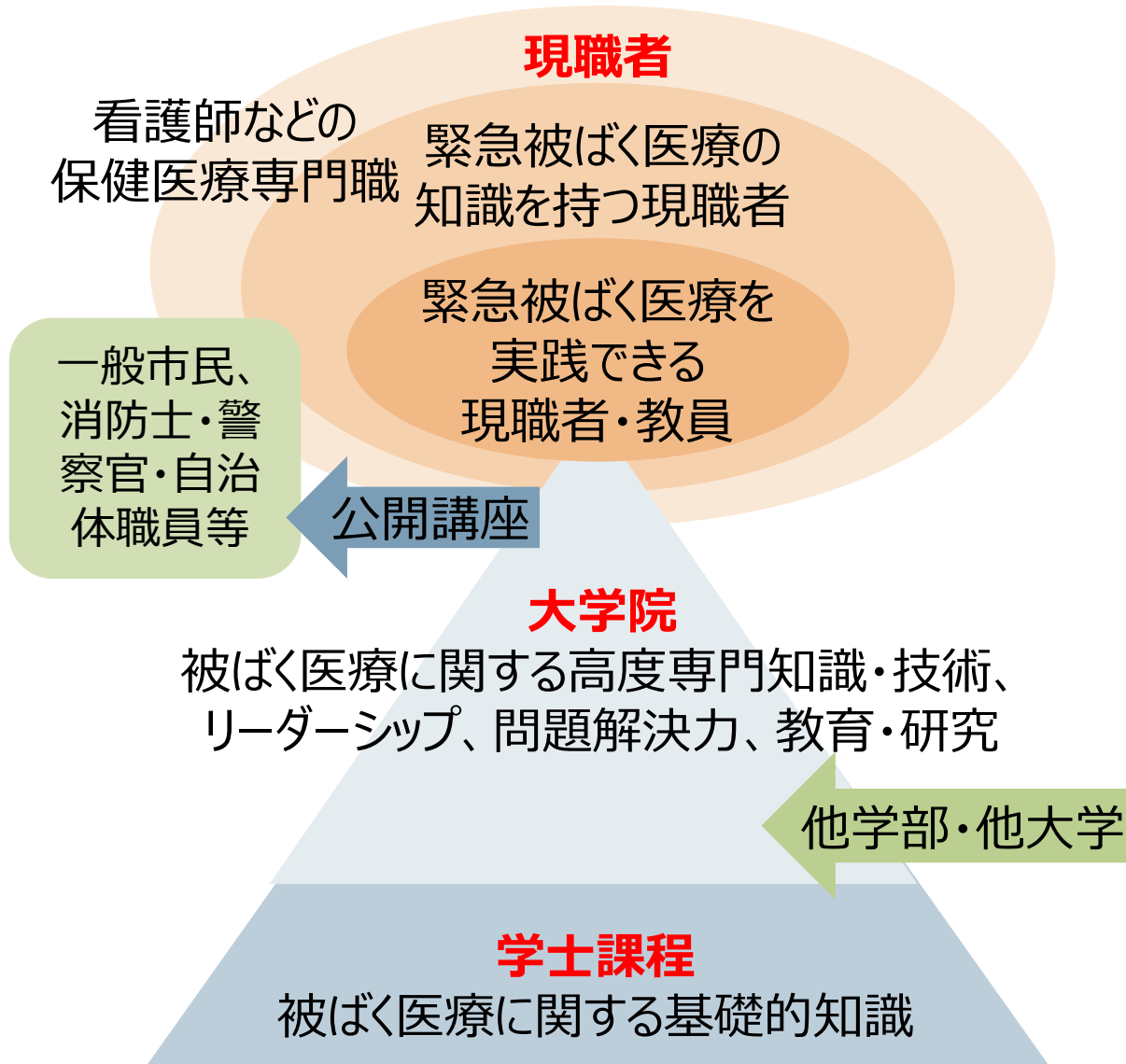


緊急被ばく医療の現状を知り、
放射線・放射線障害・放射線防護の
実際について学習し体験することから
取り組みを開始

教員がまずは学ぶ

- 放射線医学総合研究所の協力で「弘前大学被ばく医療セミナー」(3日間)を開催
- 原子力安全研究協会主催の原子力防災研修等
- 青森県の原子力関連施設視察研修
- 米国のオークリッジ科学教育研究所緊急被ばく医療センター/研修施設での研修

緊急被ばく医療支援人材育成の概念と育成する人材像



育成する人材像

現職者教育：対象者の教育経験レベルに応じて、緊急被ばく医療に関する基礎的知識から高度な専門的知識まで理解を広げ、**有事の際に対応できる人材**

大学院教育：緊急被ばく医療に関する**高度な専門的知識・技術を備えた**人材、緊急被ばく医療に関する**教育・研究を推進**できる人材

学士課程教育：保健学領域におけるそれぞれの専門的知識・技術を備えた上に、緊急被ばく医療に関する**基礎的知識を有する**人材

緊急被ばく医療支援人材育成：カリキュラムの概要

2010年から教育開始

育成する人材像

現職者教育：対象者の教育経験レベルに応じて、緊急被ばく医療に関する基礎的知識から高度な専門的知識まで理解を広げ、有事の際に対応できる人材

大学院教育：緊急被ばく医療に関する高度な専門的知識・技術を備えた人材、緊急被ばく医療に関する教育・研究を推進できる人材

学士課程教育：保健学領域におけるそれぞれの専門的知識・技術を備えた上に、緊急被ばく医療に関する基礎的知識を有する人材

現職の看護師と診療放射線技師を対象として、緊急被ばく医療に必要な知識を習得し、連携・協働しながら適切な対応かつ安全管理ができる医療者を育成することを目的とした**2日間の短期研修プログラム**(被ばく事故のシナリオに基づいた合同でのシミュレーション演習を含む)

緊急被ばく医療に関する高度専門職やリーダーを養成することを目的として、**大学院博士前期課程に「被ばく医療コース」**を設置(共通科目と専門科目15科目を新設し、必修3科目(6単位)、選択2科目(4単位)以上の履修

教養科目「**放射線防護の基礎**」(1年前期・1単位)：放射線防護の基礎知識、緊急被ばく医療の概要が理解できる基礎知識の習得
専門科目「**医療リスクマネジメント**」(3年前期・1単位)：緊急被ばく医療の理解と各専門職者連携、事故時の危機管理体制の理解の内容を含める

緊急被ばく医療支援人材育成：カリキュラムの概要

2010年から教育開始

育成する人材像

現職の看護師と診療放射線技師を対象として、緊急被ばく医療に必要な知識を習得し、連携・協働しながら適切な対応かつ安全管理ができる医療者を育成することを目的とした2日間の短期研修プログラム(被ばく事故のシナリオに基づいた合同でのシミュレーション演習を含む)

現職者教育：対象者の教育経験レベルに応じて、緊急被ばく医療に関する基礎的知識から高度な専門的知識まで理解を広げ、有事の際に対応できる人材

第7回放射線看護セミナー
放射線診療における看護に必要な基礎知識2022

日時 令和4年10月15日(土) 13:00~16:00
Web開催 ◆Zoom使用

対象 放射線看護に興味・関心のある医療職者(先着200名程度)

内容
教育講演1 13:15~14:15
放射線の基礎と医学利用
弘前大学大学院保健学研究科 細川 雅太
教育講演2 14:30~15:00
神経内分泌腫瘍に対する新規ペプチド受容体核医学内用療法理論と治療概要
国立大学法人弘前大学医学部附属病院 放射線治療科長 青木 昌彦 先生
教育講演3 15:00~15:30
ルタテラによる治療を受ける患者の看護
国立大学法人弘前大学医学部附属病院がん放射線療法看護認定看護師 依藤 裕美子 先生

申込方法 事前申し込み制(参加費無料)
次の専用フォームからお申し込みください
<放射線看護セミナー申し込みフォーム>
<https://forms.office.com/r/sbQjvT9PK6>

受付開始日 令和4年8月1日(月)
◆申し込み先着順で定員に達し次第、受付終了となります

お問い合わせ先 弘前大学大学院保健学研究科 放射線看護教育支援センター(担当:柏村)
TEL:0172-39-5518 FAX:0172-39-5912 E-mail:hiro@hiro.trosaki-u.ac.jp
URL:<https://www.hiro.trosaki-u.ac.jp/hirokyo/>

2022年度放射線看護ベーシックトレーニング

令和4年11月5日・土
13:00~17:20
Web開催

対象 看護師、看護教育に関わる教育機関関係者(先着100名)

受講料 無料 ※別途テキストの購入が必要です
7改訂版「看護と放射線」(日本アイソトープ協会発行/定価2,500円+税)

申込方法 事前申し込み制
次の専用フォームからお申し込みください
◆放射線看護ベーシックトレーニング申込フォーム
<https://forms.office.com/r/CXamu2XX1>

【申込期間】
令和4年8月1日(月)~令和4年9月20日(火)
※詳細な研修プログラムは即でご確認ください。

共催 弘前大学大学院保健学研究科 放射線看護教育支援センター / 放射線部
京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター / 放射線部

お問い合わせ先 弘前大学大学院保健学研究科 放射線看護教育支援センター(担当:柏村)
TEL:0172-39-5518 FAX:0172-39-5912 E-mail:hiro@hiro.trosaki-u.ac.jp
URL:<https://www.hiro.trosaki-u.ac.jp/hirokyo/>

◆2022年2月に日本看護協会の専門看護師 専門看護分野に「放射線看護」が新たに認定されました。
◆本セミナーは19年度前年度取得(15単位)の認定対象セミナーです。

3rd RNEC Seminar
コロナ禍の放射線治療における看護ケア

2022.03.03
18:00-19:30 (日本時間) 17:00-18:30 (台湾時間)

お申し込みはこちら(参加無料)
Zoomウェビナー 事前登録フォーム
<https://zoom.us/join?meetingid=9211514628&pwd=9211514628>

台湾におけるコロナ禍のパンデミックケアと放射線治療
郭 淑輝 (台北医学大学病院 看護部長)

放射線治療の進め方と看護師の役割
依藤 裕美子 (弘前大学医学部附属病院 放射線療法看護認定看護師)

放射線治療中における看護ケア
~有害事象に際するケアに焦点を当てて~
村上 遼人 (弘前大学医学部附属病院 看護師、放射線看護認定看護師実践コース修了生)

お問い合わせ先 弘前大学大学院保健学研究科 放射線看護教育支援センター
TEL:0172-39-5518 FAX:0172-39-5912 E-mail:hiro@hiro.trosaki-u.ac.jp
URL:<https://www.hiro.trosaki-u.ac.jp/hirokyo/>

近年は、放射線看護セミナー、放射線看護ベーシックトレーニング、国際セミナーも定期開催

受け身から発信への転換～被ばく状況調査チームの活動

福島第一原子力発電所事故
の際の活動（2011年）

次の5年間～放射線看護への拡大と放射線看護専門看護師教育

次世代の事業採択

「緊急被ばく医療の教育・研究体制の高度化及び実践的プログラムの開発－高度実践被ばく医療人材育成グローバル拠点の形成」(2013～2017年度)

- 指導的立場から緊急被ばく医療に対応できる医療専門職者の育成
- 適切な放射線リスクコミュニケーションを指導できる人材の底辺拡大
- より高度で実践的な緊急被ばく医療人材育成プログラムを開発
- 高度実践看護師等を視野に入れた「グローバル」な被ばく医療人材育成の拠点を形成

次の5年間～放射線看護への拡大と放射線看護専門看護師教育

被ばく医療を含む放射線看護分野における高度実践看護師の確立に向けた活動の開始

- 日本放射線看護学会を設立(2012年)
 - 博士前期課程に「放射線看護高度看護実践コース」を設置
 - 日本看護系大学協議会の専門看護師分野「放射線看護」の分野特定(2015年)、教育課程の承認(2016年)
 - 日本看護協会の専門看護師分野「放射線看護」の分野特定(2022年)
- 高度実践看護師等を視野に入れた「グローバル」な被ばく医療人材育成の拠点を形成

取組みを支えたもの～Turning Point・好循環に導くプロセスを考える

- 早期の検討組織の立ち上げ、事業申請・採択による予算の確保：活動のための人や物、時間の確保
- 教員研修の位置づけ：「教育する側がまずは知る」、人材育成に直接関与しない教員の研修会受講→組織的に取り組む事業であるとの周知、一丸となって取り組む雰囲気
の醸成
- 大学としての本事業の位置づけが明確(中期目標・中期計画)、プロジェクト予算以外にも大学からの予算措置：大学の支援を受けた事業との認識
- 組織に属する人材の充実：本研究科に放射線の専門家、診療放射線技師教育を行っている教員の存在
- 緊急被ばく医療における看護を限定的なものとし、従来からある放射線診療を受け
る患者の看護と融合